

## 戦時南京における室伏クララの翻訳活動

——原文・掲載雑誌の考証と翻訳手法の考察を通して

室伏クララ、汪精衛政権宣伝部、『中日文化』、文化工作、翻訳の政治性

蔡 夢慧

本稿は、女性翻訳者室伏クララの戦時南京における翻訳活動を考察するものである。中日文化協会の機関誌『中日文化』日文版（1941）に掲載された室伏による話劇脚本「父と子」と小説「夜景」の翻訳を中心として検証を行う。室伏は汪精衛政権宣伝部に属した唯一の日本人女性翻訳者であり、その翻訳活動は「日中文化合作」というプロパガンダのもとで展開された文化工作の一環として位置付けられる。本稿では、原文及びその掲載雑誌の性格分析、翻訳手法の検討を通じて、室伏の翻訳が如何なる歴史的・政治的文脈で生成され展開されたのかを明らかにする。南京時代の室伏の翻訳は、同化と異化の手法を併用しつつ原文の政治性を再構成するものであったことが確認できる。その翻訳は単なる言語的媒介に留まらず、「日中文化合作」という理念を具現化した実践であると同時に、その正当性を「証明」する装置としても機能したのである。